



第50回小学校代表者研修会

キリスト教小学校と新・教育基本法

—その批判的検討—

宮城学院学院長 深谷松男

一 新教育基本法の制定に続いて学校教育法が改正され(義務教育の章の新設)、知事が私立学校に教育委員会を助言・援助を求めるとが...

二 新教育基本法の検討における基本的立脚点... 第一に教育の本質、特にキリスト教に基づく学校教育の理念である。

三 新基本法第二条は、公共の精神や国・郷土を愛する心を包含する五群の教育目標を...

四 憲法及び基本的人権の視点を重視すべし... 個人の尊厳が教育の基本理念となり、人格の完成が教育の目的である。

五 その他、新基本法の随所に問題を見いだす。特に、上記の徳目主義と「宗教に関する一般的教育」(十五条)及び...

六 主が信託された教育に仕える者は、時代を見抜く目の確かさを問われる。

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

この研修会は、次期学習指導要領では道徳教育計画の責任教員を配置することへと進む状況の中で、この講演は行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

この研修会は、次期学習指導要領では道徳教育計画の責任教員を配置することへと進む状況の中で、この講演は行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

この研修会は、次期学習指導要領では道徳教育計画の責任教員を配置することへと進む状況の中で、この講演は行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。



研修会に参加する人々

まとめ 連帯を感じた研修会

立教女学院小学校宗教主任 吉田太郎

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

この研修会は、次期学習指導要領では道徳教育計画の責任教員を配置することへと進む状況の中で、この講演は行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

この研修会は、次期学習指導要領では道徳教育計画の責任教員を配置することへと進む状況の中で、この講演は行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。

二〇〇八年一月二十三日、東京ではあつちの雪が降り積もる中、東京ガバナンスを会場として第五十回となる小学校代表者研修会が行われた。

関東地区 キャンパスミニストリー 大学部会研究集会

本年度関東地区大学部会研究集会は、二月二十日(金)、ルーテル学院大学を会場に、「現代人の心のケアとキャンパスミニストリー」をテーマとして開催された。

大きな目的のひとつに、国家にも規範意識を形成する平和的社会的な形成者を目指すことが、この三点を中心に解説をいただいた。出陣「新・教育基本法」と題して講演が行われた。熱心な質疑を含め、私自身も考えさせられた研修会であった。

『キリスト教学校教育同盟百年史』

刊行に向けての新たな一歩

第六回編纂委員会開催される

二〇一〇年に百年を二巻本で刊行予定し、迎える教育同盟の記念事業の環として、教育同盟「百年史」編纂作業が進行している。二〇〇八年三月六・八日には、東京カトリックパレスにおいて第六回編纂委員会が開催され、十八名が参加した。二〇一〇年秋の刊行に向けてより具体的な協議が行われた。

この三月の委員会は二〇一〇年の第一回編纂委員会以来初の二泊三日という日程で開催され、前半を資料編、後半を通史編についての協議に充てられてきた。

昨秋より、いっしょに出版社に出版見積もりを依頼し、現在一社に絞られた段階であるが、その見積りにも依れば、特に「百年史」の出版に必要となる資料の多くが、紙幅の都合上、縮小されたか掲載できない見通しがある。協議の結果、本の中に収まらない資料についてはCD-ROMの形で収録する統計表の作成を進めていくこととされた。通史編については昨年九月の委員会に引き継がれ、二〇〇九年九月に目次構成案を中心に協議し、「百年史」全体の流れについて検討した。四人の執筆コーディネーターによるドラフト説明と質疑、地区協議会の検討を行った。また今後通史として表紙の統一を図るため、執筆要項の検討により用語、表記法について議論した。最後に、改めて時期区分について問題となり、より綿密に草創期(一九〇〇〜一九二九年)、十五年戦争期(一九三〇〜一九四五年)、再編期(一九四六〜一九六〇年)、安定期(一九七〇〜一九九四年)、現在(一九九五年以降)と地区協議会(一九四九〜二〇〇七年)の七部構成とすることになった。今後は各執筆が徐々に書き進めていき、秋と春に集まって内容を検討する機会を設けようとしている。また、監修委員という役を設け、土肥昭夫、出村彰、鶴川馨の二顧問に委嘱して、通史編、資料編の編纂及び執筆内容に対してより深く関わっていただくこととした。また、個人的な話では恐縮だが、二〇一〇年十月より本編編纂委員の研究者として関わらせていただいていた筆者は、この四月より北陸学院大学短期大学部に赴任することとなり、四月からは編纂委員及び編纂業務を担当する作業委員として関わらせていただくこととなった。

次期委員会は二〇〇八年九月に開催し、通史編については執筆の進捗部分での内容を検討する予定である。刊行予定まであと半年と時間は確実に迫っている。しかし、まだまだ残された作業は多い。時間には限られているが、最善の年史ができるよう、二〇一〇年の刊行に向けて、委員会メンバー一同力を合わせて、作業を進めていきたい。

西原廉太氏の講演の使命を伝え続ける必要性等を述べた。続いてシンポジウムでは、片山はるひ氏(上智大学教授)、野々村昇氏(活水学院)、目院氏、鎮心女子学院、教諭、高田野早氏(香蘭女学校)の四名がそれぞれ発表を行った。なお、昨年二月に第四回公開講演会・フォーラムが開催されたが、その記録として、高祖敏明著『キリスト教教育の可能』とフォーラムの四名の発題委員が収録されている。教育同盟では月に各法人に代表者、教分を巡回した。入手希望の場合は教育同盟事務局へ問い合わせいただきたい。

新任教職員のみなさんへ

キリスト教学校教育同盟とは?

大報委員会では、新年度が始まるにあたり、新任教職員の方々に「キリスト教学校教育同盟」についてご紹介いたしました。キリスト教学校教育の重要な柱となり、また、一八九三(明治三十二)年に発令された文部省訓令第十二号は、学校における宗教教育を禁じ、キリスト教学校は存立を脅かされる状況となりました。キリスト教教育を続ける場合は、「各種学校」扱いとなり、上級学校への進学や徴兵適予の特権を失うことになりました。このような状況に対して、一九一〇年キリスト教男子学校十数校が「基

すを目的に置く組織として、二〇一〇年に創立百周年を迎えます。理事の多くは、地区協議会を主たる活動の場として、各校代表者協議会(例年一回十一月開催) ③教研中央委員会、大

別に編集する案が出た。また、年表は別冊にする案も出た。今後、夏頃までにはサンパルとして一部を出版社に提出の上、文字計算してもらい、最終的な掲載作業を、年内を目途に進めていく。この他に今後、資料の打ち込み、口述史については昨年九月の委員会に引き継がれ、二〇〇九年九月に目次構成案を中心に協議し、「百年史」全体の流れについて検討した。四人の執筆コーディネーターによるドラフト説明と質疑、地区協議会の検討を行った。また今後通史として表紙の統一を図るため、執筆要項の検討により用語、表記法について議論した。最後に、改めて時期区分について問題となり、より綿密に草創期(一九〇〇〜一九二九年)、十五年戦争期(一九三〇〜一九四五年)、再編期(一九四六〜一九六〇年)、安定期(一九七〇〜一九九四年)、現在(一九九五年以降)と地区協議会(一九四九〜二〇〇七年)の七部構成とすることになった。今後は各執筆が徐々に書き進めていき、秋と春に集まって内容を検討する機会を設けようとしている。また、監修委員という役を設け、土肥昭夫、出村彰、鶴川馨の二顧問に委嘱して、通史編、資料編の編纂及び執筆内容に対してより深く関わっていただくこととした。また、個人的な話では恐縮だが、二〇一〇年十月より本編編纂委員の研究者として関わらせていただいていた筆者は、この四月より北陸学院大学短期大学部に赴任することとなり、四月からは編纂委員及び編纂業務を担当する作業委員として関わらせていただくこととなった。

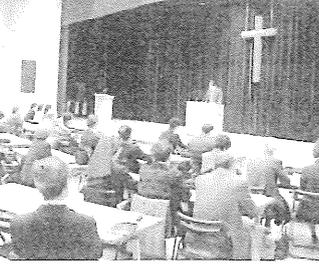
Table with 4 columns: 東北・北海道地区 (13法人), 関東地区 (44法人), 関西地区 (32法人), 西南地区 (12法人). Lists member schools and their locations.

西原廉太氏が講演

キリスト教学校教育懇談会 第5回公開講演会開催される

三月号で概要既報の日本カトリック学校連合会と教育同盟とが共同で運営しているキリスト教学校教育懇談会主催の第五回公開講演会・シンポジウムが二月二十三日に立教池袋中学校・高等学校のセントラルホールで開催され、約百七十名が参加した。当初講師に予定していた松平信久立教院院長に代わって、西原廉太氏(教大大学教授・学長補佐)が「現代に生きるキリスト教教育」と題して講演し、カリキュラムの再構築、学士課程教育の見直し、キリスト教学校

校教育懇談会主催の第五回公開講演会・シンポジウムが二月二十三日に立教池袋中学校・高等学校のセントラルホールで開催され、約百七十名が参加した。当初講師に予定していた松平信久立教院院長に代わって、西原廉太氏(教大大学教授・学長補佐)が「現代に生きるキリスト教教育」と題して講演し、カリキュラムの再構築、学士課程教育の見直し、キリスト教学校



西原廉太氏の講演

